

ナシ「甘太」の本摘果時における着果程度と収量性

ナシ「甘太」は、本摘果時に側枝1m当たり4果着果させると、高収量を確保しながら大玉生産が可能である。また、側枝1m当たり3果では収量性が劣り、5果では大玉果の割合が減少し、小玉果の割合が増加する。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 平本恵)

研究のねらい

農研機構が育成したナシ新品種「甘太」は、晩生のナシで糖度が高く甘味が強いいため、熊本県においても導入が期待される品種である(農業研究成果情報No. 698)。

しかし、品種特性を活かしながら、高収量を得るための適正な着果量が不明である。そこで、本摘果の程度の違いによる1果重および収量について明らかにする。

研究の成果

1. 果実の日肥大量は、側枝1m当たり3果および4果は順調に肥大するが、5果は満開100日後頃から果実肥大がやや鈍くなる(図1)。
2. 収穫時の平均1果重は、側枝1m当たりの着果数が少ないほど大きくなる。その他の果実品質は着果数による差はない。10a当たりの推定収量は、側枝1m当たり5果で約5.8t、4果で約4.6t、3果で約3.7tと、側枝1m当たりの着果数が多いほど多くなる(表1)。
3. 果実の階級比率は、側枝1m当たりの着果数が少ないほど大玉果の割合が増え、着果数が多いほど小玉果の割合が増える。特に、5果では、大玉果の割合が低く、小玉果の割合がやや高くなる(図2)。

普及上の留意点

1. 本試験は、13~14年生、4本主枝を用いて主枝単位で処理区を設定し、満開約20日後に予備摘果、満開40日後に本摘果を実施し、満開50日後に白一重袋で被袋した。

【具体的データ】 No. 955 (令和3年(2021年)6月) 分類コード02-10 熊本県農林水産部

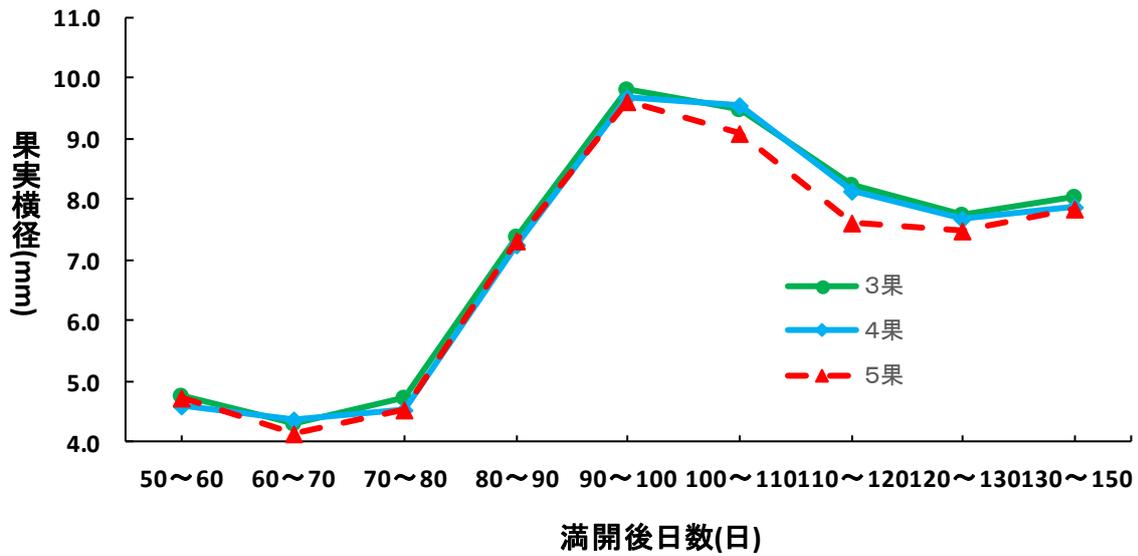


図1 「甘太」における側枝1m当たりの着果数と日肥大量の推移(2019、2020平均)

表1 「甘太」における側枝1m当たりの着果数と果実品質(2019,2020平均)

1m当たり 着果数	1果重 (g)	果皮色 ^{y)} (C.C.)	硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	着果数 (個/m ²)	推定収量 ^{x)} (kg/10a)
3果	571 a ^{z)}	2.4 a	4.4 a	13.7 a	8.2	3,727
4果	540 b	2.4 a	4.4 a	13.8 a	10.9	4,581
5果	516 c	2.3 a	4.4 a	13.7 a	13.6	5,771

z)同列異符号間はTukeyの検定により5%水準で有意差あり

y)二ホンナシ地色用カラーチャート値

x)樹冠占有面率80%にて推定

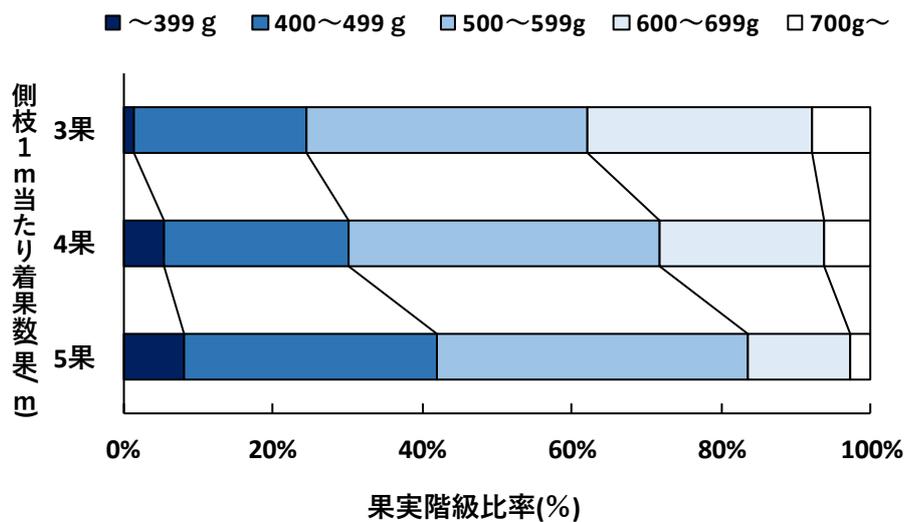


図2 「甘太」における側枝1m当たりの着果数と果実階級比率(2019、2020年平均)